

○逗子市における豪雨被害事例

昭和36年6月24日から同29日までの集中豪雨は、総雨量約341mmと推定され、当市にとっては有史以来の豪雨であつた。6月28日は1日中暗雲がたれこめ、三浦半島一帯の上空の雨雲の層は約10,000mあつたと言われ、28日午前9時から翌29日の午前9時までの1日の降雨量は約235mmをこえたものと推定された。このため市内を縦断する田越川及び支流の池子川、久木川は極度にはらんし交通機関は途絶し全市域の約18%に当たる300haが冠水した。

特に逗子、桜山、池子、久木地区は集中的に被害が発生し平たん地は殆ど水没したと言つても過言ではない状態であつたが、死者、行方不明等がなかつたことは、不幸中の幸いであつた。

被害区分 地区別	負傷者	全 壊		半 壊		床上浸水		床下浸水		計
		世帯	人	世帯	人	世帯	人	世帯	人	
逗 子	人	世帯		世帯		557世帯		329世帯		886世帯
		人		人		2,142人		1,437人		3,579人
桜 山 下						186		198		384
						739		907		1,646
沼 間						62		142		204
						251		583		834
池 子	2	1				165		69		235
		2				752		259		1,015
山 の 根						10		74		84
						51		304		355
久 木		1				251		219		471
		3				1,016		1,348		2,367
小 坪				3		3		43		49
				15		15		181		211
新 宿	1	1		1		102		163		267
		3		2		387		635		1,028

桜 山 上				300	254	554
				1,271	1,057	2,328
計	3	3	4	1,636	1,491	3,134
		8	17	6,624	6,711	13,363

1 応 急 対 策

6月28日午後3時50分発表の県の大雨、洪水注意報により、退庁前平常宿直者のほか、10余名の職員を待機させるとともに、消防長をして消防職員及び団員に出動待機を指示し、午後7時の満潮時に備えさせたが、豪雨は去らず、河川は刻々増水し、各地区からの被害の状況連絡もひん繁となつてきた。同日午後10時30分発表の県の大雨洪水警報を受信したので、消防長及び警察署長とも連絡をとり、危険地区に対し避難命令をだし、人命救助活動をした。池子米軍隊には水陸両用車の出動を要請し、万全を期した。

この措置により避難した人員及び場所は次のとおりである。

避難場所	避難人員	備 考
逗 子 警 察 署	20人	
〃 市 役 所	30	
〃 小 学 校	80	
久 木 中 学 校	50	
久 木 小 学 校	50	
逗 子 中 央 病 院	20	
久 木 東 芝 寮	50	
小 坪 小 学 校	50	
第 1 消 防 分 団	54	会 館
第 3 〃	37	会館、沼間小、海宝院
第 4 〃	30	会 館
第 6 〃	31	久木関東自動車寮
松酒屋支店(久木)	20	

第 8 消 防 分 団	13	開発銀行寮
第 9 "	12	会 館
消 防 本 部	20	
計	567	

2 災害救助法の発令

6月29日午前9時40分当市と鎌倉市に災害救助法が発動されたので、同日午後緊急市議会全員協議会を開き、応急復旧対策を協議した。

3 給食及び救援

6月29日早朝より前夜から手配した食パン、罐詰をとりあえず配給すると共に見舞金等の救援を開始した。

食 パ ン		3,990 食
罐 詰		1,500 個
空俵、空かます		10,000 俵
見 舞 金	全壊世帯	5,000 円 (1 世帯)
	半壊世帯	3,000 円 (")
	床上浸水	2,000 円 (")
見 舞 品	全壊世帯に	日用品及び肌着若干
	半壊世帯に	肌着若干
(毛 布)	1 人世帯	1 枚
	2 人世帯以上	2 枚

4 土木関係の被害状況

浸 水 面 積	約 300 ha
土 砂 崩 れ	40 カ所 (推定土量 3,000 m ³)
河川護岸崩れ	14 カ所 (推定延長 630 m)
道路洗堀及び崩れ	3,500 m ³ (推定面積)
橋 梁 流 失	2 カ所
被 害 見 積	
公共土木施設の被害総額	6,560,000 円
内訳 国庫補助対象被害	3,000,000
県 "	1,600,000

市 負 担 被 害 1,960,000

5 災害復旧の処置

(1) 土 木 関 係

(ア) 道路工夫を配し重要交通機関道路の崩落土片付け

(イ) 全職員を配し全市の災害状況を調査し、県へ災害復旧補助を申請

(ウ) 沼間150番地内が崩れにより市道が埋没し、交通不能となつたので6月30日県知事を経由自衛隊第一教育団(武山駐とん部隊)の派遣を要請、同日午後5時からトラック7台、ベルトコンベアー1基を使用し、隊員延850名実働40時間をもつて応急復旧作業を終わった。

(2) 厚 生 関 係

豪雨災害に対する市民の防疫対策については、水禍のあと続発のおそれある赤痢等の伝染病を未然に防止するため同29日朝から直ちに被災地帯の消毒を開始し、10日間延108人の作業員を動員、消毒殺虫薬約4.5tをもつて約4,300戸の消毒作業を完了した。

じんかいの処理については10日間延204人、作業車62台を動員し約294tを焼却又は埋没処理した。

し尿については、10日間延201人、タンク車延70台により約17,000ℓを処理した。

浸水のため使用不能となつた畳は5,614枚の多きに達し、これを埋没処理した。

6 防災根本対策

防災の根本的対策は、本流田越川の改良することにあるので、これについて県土木部関係者とつぶさに現地を調査し、次のような対策が考えられるので、速やかな善処方を要請した。

(1) 現在土堤になつている部分を石積等に整備することにより、河積4割位増大せしめることができる。

(2) 下田橋附近及び仲町橋下流の折曲部分を整正することにより、流通をよくすることができる。

(3) 河床を「しゅんせつ」することにより水位を下げる可以考虑。